

電気通信大学 平成21年度シラバス

授業科目名	社会情報システム論1		
英文授業科目名	Social Informatics 1		
開講年度	2009年度	開講年次	
開講学期	前学期	開講コース・課程	博士前期・後期課程
授業の方法	講義	単位数	2
科目区分	情報システム学研究科-社会知能情報学専攻-専門科目		
開講学科・専攻	社会知能情報学専攻		
担当教官名	太田 敏澄		
居室	旧東食堂103		

公開E-Mail	授業関連Webページ
ohta@is.uec.ac.jp	http://www.ohta.is.uec.ac.jp/

【講義の狙い，目標】

現代社会の至る所に、コンピュータによる情報ネットワークが存在している。行政のネットワーク化では、国レベルの行政情報化推進計画をはじめとして、地域情報化などで情報ネットワークを活用した取組が行われている。また、企業の情報ネットワーク化では、イントラネット、情報を基盤とした流通機構の改編、サイバーモール、電子マネーなど、さまざまな新しい情報や財の取引形態が出現している。ことに、最近の情報システムは、ソフトウェアが社会的関係を仲介する社会的コンピューティングや、ネットワーク上の仮想空間であるヴァーチャル・コミュニティを実現している。さらに、インターネットに代表される新たな情報ネットワークは、社会において、マスメディアとは異なる双方向的な情報の受発信を実現している。

このような状況を踏まえて、高度情報ネットワーク社会における人文・社会科学的情報概念と自然科学的情報概念との統合を志向し、社会情報システムの機能や構造について理解を深めることとする。

【内容】

(a) 授業内容

本講義では、社会と人間を結ぶ情報システム学という視点に立脚し、情報システムを意識した社会システム論、社会システムを意識した情報システム論、実態としての社会情報からなる三つの領域からのアプローチについて、オーガニゼーションをキーとした講述を行う。

社会情報論

組織構造やコミュニケーションを理解するため、集団力学、合理的組織構造、組織構造の進化、現代的組織構造に関する理論やモデルにもとづき、企業組織、社会組織、行政組織について論じ、組織設計や人工実現社会について考察する。

社会システム論

複雑性を把握する方法論を理解するため、システム理論、自己組織化、知的分散システムに関する理論やモデルにもとづき、個人、集団、組織の機能、構造、過程に着目する主体行動モデルについて論ずる。

情報システム論

組織や社会における意思決定や情報処理を理解するため、適応的人間行動モデル、組織や市場の調整モデル、組織学習モデル、エージェントモデル、メディア論などにもとづき、情報システムの機能や創発性

電気通信大学 平成21年度シラバス

について論ずる。

(b) 授業の進め方

事前に配布した資料に基づき討論を行うことがあるので、討論に加われるよう準備しておくこと。

(c) 授業外の学習(予習・復習等)について

参考書や授業中に紹介した文献について、予習や復習をすること。

(d) オフィスアワー：授業相談

適宜相談に応じるが、e-mailなどで事前にアポイントメントをとること。

【教科書，参考書】

教科書：講義時配布資料および

太田敏澄「情報環境」，

稲葉元吉編著『社会の中の企業』（八千代出版）

参考書：太田敏澄「IT時代の情報都市」，

田中啓一編『都市と環境の公共政策』（中央経済社）

太田敏澄「サイバー・コモンズの組織化」，

遠藤薫編『環境としての情報空間』（アグネ承風社）

太田敏澄他著『社会情報システム学・序説』（富士通ブックス）

太田敏澄他著『社会情報学のダイナミズム』（富士通ブックス）

【予備知識】

経済学，心理学，社会学など，人文社会科学的基础科目

【演習】

該当なし

【成績評価方法及び評価基準】

(a) 評価方法

2回以上のレポートを課す。

(b) 評価基準

(1) 社会・経済システムのモデルを理解している。

(2) 意思決定のモデルを理解している。

(3) 調整モデルを理解している。

(4) 社会・経済情報システムの事例を説明できる。

(5) 情報化戦略の事例を説明できる。

【その他】

なし